日本赤十字豊田看護大学
JAPANESE RED CROSS TOYOTA COLLEGE OF NURSING

ITOSUGI

いとすぎの丘

入学式

災害救護演習

卒業式

Pick Up

東日本大震災

3月11日に発生しました東日本大震災において、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。本学においても、学生が自主的に募金活動を行いました。また、本学教職員も被災地において救護活動に参加しました。

■ 卒業式・入学式特集
■ 大学の活動
平成22年度 公開講座報告
東日本大震災
～復興に向けわれわれにできること～
Academic Library
研究の窓
■ 学生生活
災害救護演習に参加して
カナダでの国際保健実習
■ Information

発行日／2011年5月　Vol.13

卒業式

素敵な出逢い

第4期生　柘植　宏美

日本赤十字豊田看護大学第４期生として卒業を迎えた今、この４年間を振り返ると様々な人に支えられていたことを実感します。思い起こせば入学時には、友達ができるだろうか、４年間も通えるだろうかと不安に思うこともありました。定期試験前は友人と情報を共有し、単位取得を目指して一生懸命勉強したこと、大学の特色を生かした行事で他学年と交流したこともよい思い出です。実習では、現場の空気に圧倒されながら教科書では学ぶことのできない貴重な体験を通して、看護の素晴らしさを実感し、看護師への決意を新たにしました。

この４年間いくつもの壁にぶつかりましたが、いつも誰かに励まされ、乗り越えることができました。毎日のように顔を合わせ、どんなことも話し合える友人や、看護の基本を教えてくださった先生方、様々な場面で支えてくださった職員の方々。実習で出会った理想の看護師さん、受け持たせていただいた患者さん、いつも見守り、支えてくれた家族。たくさんの素敵な出逢いに支えられ、卒業を迎えることができたのだと思います。

今後もこの出逢いを大切にしながら、看護師として活躍できるよう頑張っていきたいです。

学長式辞

学長　渡邉　英夫

めずらしく、雪・霜柱・つららが見られた厳しい冬、1月には霧島山脈新燃岳の大噴火、チュニジアに端を発したネット革命はエジプト・中東の政治不穏となり、2月にはニュージーランド・クライストチャーチ大地震と地球全体が揺れ動いています。残念でございますが、諸君が小児看護学実習でお世話になりました名古屋第一赤十字病院小児科部長鈴木千鶴子先生のご息女が遭難されました。世界で通用する医療従事者になりたい。この高い志のため、昨年11月からESL(English as a second language)獲得のために赴いてみえました鈴木陽子さんの死亡が確認されました。諸君の同業の先輩の志半ばの非業の死、無念、そして鈴木千鶴子先生の心中をお察し、衷心からお悔やみとご冥福をお祈ります。3月11日14時46分、東日本大震災が発生しました。観測史上最大のマグニチュード9.0の未曾有の大地震・巨大津波で、TVの映像の凄さに言葉がありません。死者数千人、今尚45万以上の人が避難されています。死者のご冥福をお祈りしたいと存じます。恐れ入りますが、皆様ご起立をお願いいたします。黙祷・・・・。有難うございました。どうぞご着席をお願いいたします。もとより愛知県支部・名古屋第一・第二赤十字病院からも救護班が出動し、活動をしています。続いて第二、第三救護班と出動しています。こうした中、ここに第４期生の卒業式を差なく迎えることが出来ましたことは誠に幸いでございます。

本日、平成23年3月16日、日本赤十字豊田看護大学は平成22年度の学位授与・卒業式を迎えました。日本赤十字学園理事長大塚義治様、日本赤十字社愛知県支部長神田真秋様、豊田市長鈴木公平様はじめ多くのご来賓のご臨席を賜りましたことに深甚なる感謝を申し上げます。そして多くの関係者の皆様にもご臨席を賜りました。特に、各種実習をお世話いただきました医療施設・保健所・その職員の皆様に心から感謝を申し上げます。お陰を持ちまして本日卒業式を迎えることが出来ました。有難うございます。

141名の卒業生諸君、卒業おめでとう。心からお祝いいたします。

平成19年4月、諸君の入学式、時の学長、村地俊二先生の式辞を覚えていますか。先生は赤十字の精神・humanity、Jean Henri Dunautの心を「惻隠の情」と云われ、人間愛、更によき友を作ること、常に論理的思考をすること、本学学生として責任を果たすことを述べられました。平成21年4月入学の編入生の諸君には私が式辞を述べましたが覚えていますか。同様のことを話し、更にアメリカ大統領Barack Obamaの有名な言葉We say, we hope, we believe, yes we can do. の言葉を諸君に送りました。

諸君は有意義な学生生活を通じて、未来に羽ばたく力を蓄えられたと信じています。

人生には折り目節目があります。小学校入学時、中学校入学時、高等学校入学時、大学入学時と既に経験してきていますが、その時々、何を感じ、何を考えてきましたか。大部分の諸君は在学中に成人になりました。大きな節目です。これにより諸君は日本人としての責任・義務・権利を持ちました。医療の現場は先人の努力により今日のレベルにあり、それを我々は受け継ぎ、更にレベルを上げ、諸君にバトンタッチします。日本の医療の現場の未来は諸君の手にあります。力一杯努力して下さい。諸君の力を信じています。諸君のご活躍を期待します。

さて、4月から、医療の現場に立つ諸君に送りたい言葉があります。数十年前になりますが、医学部の臨床実習の時、先輩から「臨床はBeobachtung」だと言われました。ドイツ語のBeobachtungは日本語では観察であります。Beobachtungの言葉の響きと共に強烈な印象でありました。私は今日までこれを続けています。臨床は観察に始まり、観察に終わるといえます。ほんの些細な兆候を見逃さないことが大事を防ぐことになります。ほんの些細な兆候を見逃さないことは普段の観察にあります。医療の現場での観察とは分析的観察であり、前学長村地先生の言

われた論理的思考の端緒となります。リンク的に思い出される言葉があります。それは今様に言えば四字熟語ですが「一葉知秋」であります。ちなみにgoogleを見ますとこの言葉に163000件のアクセスがありますから、かなり知られている言葉といえましょう。中国漢の時代の書物「準南子」の「説山訓」の中にあります。一枚の葉っぱの落ちるを見て、年の将、まさに暮れなんとするを知るとあります。僅かな前兆や現象から、ことの大勢や本質、将来の大きな動きを察知することの例えとされています。まさに臨床の現場にピタリの言葉でありますが、これも観察の上にあります。観察に観察を重ね、考え、努力すれば、将来諸君は看護の道の達人になれましょう。大きな夢を持ち、その実現に努力することは青春の特権であります。医療の現場は諸君を待っています。Beobachtung、観察、観察する、素晴らしい言葉ではありませんか。

これを持ちまして日本赤十字豊田看護大学平成22年度学位授与式・卒業式の学長式辞といたします。（平成23年3月16日）

入学式

夢に向けての第一歩

新入生　伊藤　瑞紀

私は日本赤十字豊田看護大学に入学することができ、大変嬉しく思います。

私は、入学前の春休みの間に、何度も看護師という仕事に心惹かれました。なぜなら、3月11日に起きた東日本大震災で被災者の救護活動をしている赤十字看護職者の方たちをテレビで目にしたからです。その時私は、まだ何もすることができない自分に大きな無力さを感じましたが、それ以上に「自分は絶対立派な看護職者になるんだ。」という想いが強くなりました。今はまだ現地に行き、「救護」をすることはできないですが、募金活動やボランティアなど自分にもできることはたくさんあります。小さな事かもしれないですが、私は今できることをしていこうと思っています。

そして、これから始まる大学生活には、高校生活とは違う環境にまだ少し不安がありますが、新しくできた仲間たちと一緒に一生懸命勉学に励み、サークル活動や行事には積極的に参加し、夢に向けて一日一日生活していきたいと思います。

学長式辞

学長　渡邉　英夫

厳しかった冬も終わり、そこここに春のいぶきが感じられる季節となりました。本日、日本赤十字豊田看護大学は平成23年度入学式を滞りなく迎えることが出来ましたことは誠に悦ばしいことであります。

今年は激動の年と言えましょう。1月には霧島山脈新燃岳の大噴火、チュニジアに端を発したネット革命はエジプト・中東の政治不穏に、リビアの内戦となり、wikileaksに始まるソーシャルメディアの影響と力をまざまざと見せました。2月のニュージランド・クライストチャーチ大地震では、本学の看護実習でお世話になっています名古屋第一赤十字病院小児科部長のご息女が遭難されました。彼女は看護師であり、海外で医療従事者として活躍する志、達成のためにESL(English as a second language)習得に赴いてのことでありました。誠に残念でございます。ご冥福を祈ります。3月11日14時46分東日本大震災が発生しました。観測史上最大のマグニチュード9.0の未曾有の巨大地震と巨大津波のTVの映像の凄さには言葉もありません。さらに原発の放射能漏れは今も未解決で深刻な問題となりました。天災に次ぐ人災は全世界に警告を発しました。特に、放射能対策はこれでよしは無いことを明確にしました。被災者は2万人を超え、多くの方々が亡くなられました。ご冥福を祈り,黙祷を捧げたいと思います。皆様、ご起立をお願いいたします。それでは黙祷。・・・・ありがとうございました。ご着席下さい。

日本赤十字社は当初から災害の現場に駆けつけ、救護を展開しています。日本赤十字社愛知県支部、名古屋第一赤十字病院、名古屋第二赤十字病院、本学もこれに参加しています。被災者の方々はもとよりでありますが、現地に入られる教職員の苦労は大変なものであります。労をねぎらうと共に、敬意を表します。

本日、桜花爛漫のこのよき日、日本赤十字豊田看護大学は平成23年度入学式を迎えました。この入学式に日本赤十字社愛知県支部長神田真秋様、豊田市長鈴木公平様はじめ多数のご来賓のご臨席を賜りましたことに衷心より厚く感謝を申し上げます。また、多くの関係者、後援会の皆様にもお出で頂きましたこと、誠にありがとうございます。

さて、本学は昭和16年4月に設立されました日本赤十字社愛知県支部乙種看護婦養成所を嚆矢とし、時代と共に発展し、平成16年4月、日本赤十字社中部ブロックの看護教育の拠点校としてこの豊田市に開学されました。平成22年4月には大学院修士課程を開設する運びとなりました。

本日、新入学生136名、三年次編入学生10名、大学院生11名が日本赤十字豊田看護大学に入学いたしました。諸君、入学、おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

本日の諸君の晴れ姿は、諸君の努力によるものですが、ご両親ご家族をはじめ多くの方々の御蔭であることを忘れないで下さい。

さて、本学は看護の大学であり、赤十字の大学であります。本学建学の精神は赤十字理念にあります。

1859年イタリア統一戦争の最中、ソルフェリーノの戦場に遭遇したJean Henri Dunantは民間人でありましたが率先して救護に当たり、戦場の悲惨な状況とそれについての彼の思いを、1862年一冊の本『Un souvenir de Solferino』(ソルフェリーノの思い出)にして出版しました。当時のヨーロッパでこの本は広く読まれ、世論が盛り上がりました。これが赤十字の発端であることはあまりにも有名であります。

大変重要なことがあります。それは、社会の階級、人の上下、将校兵士、敵味方に関係なく、人は人であり、自分と同等な人間と受け止め、自分自身が傷ついたと同様に感じ、見過ごすことが出来ないと、その強い精神的衝動から行動したJean Henri Dunantその人の感性と人間愛であります。ここに赤十字の原点があります。この赤十字の精神が本学の理念であります。Jean Henri Dunantに思いを馳せ、その崇高な精神に共鳴し、学び，活かして行くことが肝要であります。

諸君は大学に入学したのであります。大学とは何であり、大学生活はどうあるべきでしょうか。考えてください。大学は卒業後のためにあります。少なくとも、大学とは、卒業後10年20年と広い視野に立ち、社会に役立つ人材を育成することであります。従って、本学は、将来、看護の世界で活躍する赤十字の精神を持った優れた人材を育成することを目的としますが、学部生は4年間、編入生は2年間の大学生活で看護学だけでなく、広い教養を身につけ、将来大学卒業生として、堂々と胸を張り自負と誇りを持って行動出来るよう努力してください。

大多数の諸君は在学中に成人となります。いわば、子どもから大人になるわけであります。大人とは自分の行動に責任を持つことであります。教えられるのではなく、自ら学ぶことが基本となります。青春のこの時は諸君にとり、大変大切な重要な時期であります。見聞を広め、豊かな教養、知性を磨くこと、生涯の友との出会い等々やること、やりたいことは一杯あります。学生生活を有為に活用して下さい。

大学での看護学の講義・演習・実習は専門職たる看護師になるための基礎であります。真剣に学んで下さい。堅牢な土台なくして立派な家は建ちませんが、土台は家が建つと見えなくなります。基礎とはそのように地味で目立ちませんが、なくてはならないものであります。もう一度申し上げます。基礎をしっかり学んで下さい。そうすることで、単に看護の知識技術を学ぶだけでなく、その中にある看護の心を感じ取ることができます。無為に過ごしてはなりません。

被災された方々、東北の復興に今、直接に手を貸すことも大切でありますが、豊田市にあります本学学生は勉学に勤しみ、優れた看護師になることは日本の将来に必要なことであります。

さて、大学院に入学されました皆様はすでに看護師として立派に社会で活動されています。その多忙な日々の中にも向学心を失わず、自分の学問的好奇心、専門分野での研究のために大学院に進学されましたことに感銘し、また働きながらの勉学には大変な苦労・努力が必要となります。ここに敬意を表するものであります。愛知県庁の東、日本赤十字社愛知県支部の2階のサテライトキャンパスも充分活用され、立派な成果を出されることを期待し又信じています。そして、皆様の真摯な姿、その存在が学部生によき刺激となることは明白であります。有難いことであります。

また、我々教職員、スタッフは諸君の看護学の勉学を第一に指導、協力、支援いたします。

最後になりますが、これから学生生活をする諸君に、青山学院大学教授、分子生物学者福岡伸一氏の言葉を送ります。「直感に頼るな。直感が導きやすい誤謬を見直すために、あるいは直感で把握しづらい現象へイマジネーションを届かせるためにこそ勉強を続けるべきなのである。それが私たちを自由にするのだ。」この言葉をよく考えてください。もう一度言います。「直感に頼るな。直感が導きやすい誤謬を見直すために、あるいは直感で把握しづらい現象へイマジネーションを届かせるためにこそ勉強を続けるべきなのである。それが私たちを自由にするのだ。」

これをもちまして、入学式の式辞といたします。（平成23年4月5日）

大学の活動

平成22年度　公開講座報告　平成23年2月19日

親子のきずなを深めよう　～怒りを暴力以外の方法で伝えることを考える～

担当：精神看護学領域・老年看護学領域・小児看護学領域・ボランティア　3名他（学生12名）

本講座では、お互いを尊重できるコミュニケーション方法を一緒に考えること、相手を傷つけない安全な関係を築くために怒りを暴力以外で伝えることの２つを目的に、親と子ども別々のプログラムを通し、学んでいただきました。参加者のみなさんは、始め緊張されていましたが、最後の親子クッキングでは、やや賑やかに！？学習したスキルを試しながら楽しまれていました。ボランティアの学生さんも準備の段階からロールプレイなど張り切って参加していただきました。参加者からは、またこのような講座があれば是非参加したいとのお言葉をいただき、一同ほっといたしました。次年度もみなさまのご参加を楽しみにしております。

（長江　美代子）

東日本大震災　～復興に向けわれわれにできること～

3月11日、宮城県三陸沖で発生した地震・津波により被災された方々へ心からお見舞いを申し上げます。本学では、教職員4名が被災地での救護活動に従事いたしました（5月1日現在）。また学生自治会やボランティアサークルでは、募金活動をはじめ、赤十字の看護学生として被災地の方々のために何ができるかを真剣に考え、行動に移そうとしています。ここに、その様子をお伝えするとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

事務職員中島係長が救護活動のため、3月17日～21日の5日間派遣されたのは宮城県の石巻市にある石巻赤十字病院でした。救護活動は朝7時から夜20時までにわたり、日々の救護活動を行うためには燃料・食料の調達や情報の整理など多岐に渡る気配りが必要でした。また、救護班に同行した被災地での巡回診療は、地域の土地勘に長けた方の協力なしには行えませんが、自らが被災者であるため絶対的な人員不足の状況でした。このため、赤十字のネットワークを活かし、石巻市出身の広島県日赤関係者にご協力いただき巡回診療を行うことができました。救護活動には、チームワークを発揮できる連携が非常に重要であり、日々の訓練や社会生活、学生生活の中で、他者を思いやり、自分の責任を果たし、物事がスムーズに運ぶための柔軟さを身に着け、自分自身を成長させることが、今の私たちにできることの1つでもあると感じさせられました。

ヘリで輸送された患者を搬送する救護班

避難所となったお寺へ巡回診療を行う救護班（盛岡赤十字病院）

地図には赤十字の活動場所を示す多数のピンが刺さっている

石巻赤十字病院内の災害対策本部

本学学生の募金活動（名古屋市内）

自治会を中心とした学生の組織では、街頭での募金活動を実施しています。ご協力いただいた募金は、403,621円です（4月28日現在）。現在は人々の関心が高いためご協力いただけることが多いようですが、復興には時間が必要であり、継続的な支援ができるよう活動していくとのことでした。

今、被災地ではこころのケアの必要性が高まっています。私たち一人一人の活動の中で培われた人道のこころが、明日の、また将来、支援を必要とする人々のために発揮されることを願ってやみません。（桂川　純子）

Academic Library

大学院生に学ぶ

図書館司書　中尾　明子

大学院開設から１年が経ち、今年度は２学年が学んでいます。本学大学院の特徴の一つとして「働きながら学ぶ」「看護現場をこなしながら学び続ける」ことがあります。それは「看護は実践科学である」ことをまさに体現しているとも言えます。

写真の本は当時の沖縄県立看護大学学長だった上田礼子氏が指揮をとり、大学と医療現場との討論、国内

外の文献検討、研究プロジェクトを起ち上げ、さらに沖縄県の保健医療看護指導者との協働の中でのコンセンサスを形成した成果物です。「大学卒業時までに育成される看護実践能力の到達目標（コンピテンシー）」と「修士課程の教育到達目標（コンピテンシー）」の類似性と相違を具体的に見せています。

本学の院生は現場では学生の臨床実習指導者でもあります。ですから、図書館サークルLFCが募集した看護川柳の大賞作品『要観察！患者さんよりも指導者さん』を職場で披露して大笑いしたそうです。

院生の背を見て学部生が学ぶこともきっと多いことでしょう。

引用文献：上田礼子.看護大学・大学院教育の到達目標（コンピテンシー）.多賀出版, 2006；p5

研究の窓

笑いと看護

赤十字･看護管理学 教授　奥村　潤子

長い間医療や看護の場では、「笑い」がタブー視されてきました。しかし、いまや「笑い」は補完代替医療にも位置づけられ、「笑い」が免疫力との関係の中で、治療効果があるといわれるようになっています。「笑い」は癒しとなり、人間関係成立の触媒的効果を果たし、相互に癒される関係をも生みだします。

終末期や難病の患者さんが、苦しい闘病生活をユーモアで克服している報告があります。患者さん自身が自分の力でユーモアを生み出し、意味ある人生を生きようとしているのです。病室へ「笑い」を届けるホスピタルクラウンの活動があります。ユーモアのキャッチボールをうまく行うと、気まずさや緊張をほぐし、人間関係の摩擦を少なくします。そして共感の笑いを誘うのです。さらに病に立ち向かう力や癒しを生み出します。

私は、臨床の現場でこそ、「笑い」が大切であることを実感し、実践に移さなければと思っています。患者のひとつ一つの生き様を意識化し、言語化する中で、はじめて看護の中に「笑い」やユーモアを生かすことができると考えます。看護師はこれを探し、気付き、話し合う中で笑いやユーモアのスキルを学んでいくことができます。日常生活の中でみつけた笑いやユーモアを、積極的に使ってみることがさらにスキルを高めることになります。これは、将来、看護師自身が苦しい状況に遭遇したとき、苦難を乗り越えるためのスキルともなります。笑いと看護の研究はまだ始まったばかりです。多くの看護師に笑いやユーモアの大切さをわかっていただきたいと今思っています。

災害救護演習に参加して

4年生　吉田　哲郎

1月27日、災害時の状況を想定し傷病者の救護を学ぶ訓練が行われました。赤十字の医師や看護師、事務職員ほか消防、自衛隊の方々とともに、学生は傷病者役や付き添い役として参加しました。傷病者になりきるためのメイクアップをし、設定された役になりきって救援を求める姿は本番さながらです。緊迫した空気の中で、下腿切創歩行可能の負傷者の自分にベッドに横になっているようにと予定外の指示が出されました。看護師さんの「大丈夫ですか」の声がかかるまでの少しの時間が非常に長く感じられましたが、適切に現場の状況に応じて対応し、軽症エリアに誘導され応急手当を受けることができました。傷病者役になることで、災害時の看護師としての役割や心のケアの大切さなど身を持って知る貴重な体験となりました。日頃から災害についての意識を持ち、これまで学んだ事を生かし、何をどうすればいいのか、何ができるのか常に考えることで自ら行動を起こせる看護師になれるよう努力していきたいと思います。

カナダでの国際保健実習

第４期生　森田　祐紀恵

平成22年8月、私たち学生７名はカナダ・バンクーバー、クワントレン大学での国際保健実習に参加しました。日本とは大きく異なるカナダの保健医療福祉制度を知り、公衆衛生や地域看護の課題について考えるため、8日間の日程で語学研修や病院見学などを通じて、現地の方々と交流しました。

移民大国であるカナダは、さまざまな文化が共存する社会なので、日本人である私たちも外国人としての珍しさはないようで、柔軟に対応していただきました。私たちは、英語での講義も受けましたが、理解するためには大量の宿題をこなさなければなりません。しかし、講師のTaby先生はユーモアあふれる授業をしてくださり、カナダの医療制度や看護の状況を学ぶことができました。また現地で働く日本人看護師の方々からは、カナダの労働環境や英語での看護の難しさについてお話を伺い、文化が看護に強く影響することを実感しました。

私たちが出会ったカナダの方々は、つたない英語を理解してくれようとするなど、皆さんとても親切で、本当に楽しく実習を行うことができました。違う国の制度を学んだことで、より広い視野で日本や世界の看護を考えることができると思います。皆さんもこのような異文化での看護体験されることをお勧めします！

Information

第8回いとすぎ祭を開催します

開催日時：平成23年5月28日（土）
　　10：00～16：30
場　　所：日本赤十字豊田看護大学内
開催内容：各種模擬店・ステージショー
　　ヘルスチェック・非常食炊き出し
　　フリーマーケット・特別講演会・献血 ほか

●オープンキャンパス2011開催

- 平成23年5月28日(土) ①10：00～
  ②13：00～（オープンキャンパスmini）
- 平成23年7月23日(土) 10：00～15：00
- 平成23年8月27日(土) 10：00～15：00

詳細は本学ホームページをご覧ください。

平成23年度上半期公開講座のご案内

地域の皆様が健康な生活について楽しく、気軽に学んでいただける講座を開催しております。
ご参加は、本学HPまたは電話、はがき、FAXで企画・地域交流課までお申込みください。
是非、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日　時	講座名	内　　容	定員	対　象
平成23年6月25日(土) 13：00～14：30	心と睡眠 （専門基礎領域）	1）すぐに眠れますか？2）夜中に目が覚めませんか？3）夢を見てませんか？4）熟睡感はありますか？この4つが揃わなければ本当に寝ていることにはならないと思います。まずは、睡眠をとることの重要性をわかりやすくお話しします。	50名	どなたでもご参加いただけます。
平成23年8月20日(土) 10：00～12：00	ちょっと太り気味が健康にいい （基礎看護学領域）	体組成計やＢＭＩ、体力測定を使用して、高齢者にとって健康な体は何かを考えます。	20名	
平成23年9月21日(水) 10：00～11：30	子どもが病気になったら… ー家族で出来る対処法ー （小児看護学領域）	お子様が病気にかかった際、病院に連れて行くかの判断や、家庭で出来る対処方法についてモデル人形を使って説明します。	20組	子育て中の親、祖父母と子ども（単独参加可）

※定員に達し次第締切とさせていただきます。

平成23年度入学試験結果

入試区分	定員	受験者	正規合格者数	実質倍率	入学者数
一般入学試験	55	622(66)	141(13)	4.4	57(8)
社会人特別選抜入学試験	5	10(1)	2(1)	5.0	1(1)
高等学校長推薦入学試験	30	58(1)	31(0)	1.9	31(0)
日本赤十字社中部各県支部長推薦入学試験	30	37(5)	37(5)	1.0	37(5)
3年次編入学試験	10	20(1)	11(0)	1.8	10(0)
大学院入学試験	10	12(1)	11(1)	1.1	11(1)

※（　）内は男子学生数再掲
平成24年度入試日程は本学ホームページをご覧ください。

平成23年度新任教員

教授	大西　文子	小児看護学	4月1日付
准教授	中島佳緒里	基礎看護学	4月1日付
講師	古澤亜矢子	精神看護学	4月1日付
助手	増尾　美帆	小児看護学	4月1日付

平成23年度新任職員

経理課長兼図書館課長	山本　章治	4月1日付
経理課主事	丸山　雅孝	4月1日付
企画・地域交流課主事	白岩香奈子	4月1日付
学務課主事	浅井　美希	4月1日付

編集後記

3月11日に発生した東日本大震災において、被害に遭われた皆様に謹んでお見舞いを申し上げます。

本号では、一部予定ページを変更して、震災に関連した活動状況をお届けいたしました。ご協力いただいた皆様に感謝いたします。また、今号より入学式を含めてご報告させていただくため発行を5月に変更しました。今後も、本学における赤十字のこころを大切にした動きを、皆様にお伝えしてまいります。被災された皆様が、一日も早く平穏な日常生活が送れるよう心より願っております。

いとすぎの丘　Vol.13

発行日／2011年5月
編集・発行／日本赤十字豊田看護大学
　　広報・公開講座委員会、企画・地域交流課

〒471-8565　豊田市白山町七曲12-33
TEL 0565-36-5228　FAX 0565-37-8558
E-Mail　kikaku-ka@rctoyota.ac.jp
HP　http://www.rctoyota.ac.jp/